

カトリック

広島教区報



わたしたちの希望である
主キリストの復活を
お喜び申し上げます。

あたらしいぶどう酒はあたらしい革袋に (マタイ9・17)

広島司教区 アレキシオ白浜満司教

「希望の巡礼者」というテーマで通常聖年を過ごしながら、わたしたちは主の復活の神秘をお祝いしています。この地上におけるわたしたちの巡礼の旅路を振り返り、新たな歩みを始めて行くため、わたしたちの最高の希望である復活された主への信頼を新たにしたいと思えます。

現代社会のさまざまな困難に直面して、わたしたちは失望や脱力感に襲われることもしばしばですが、聖パウロは「死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずで、そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です」(1コリント15章12〜14)と教えています。
キリストの復活は、人類に示された最高の福音であり、わたしたちの信仰と宣教の基礎です。教会の第一の使命は、この主の復活の福音を宣教し続けることです。それは、今もなお生きて教会を導かれるよき牧者

No. 140

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

主のご復活おめでとうございます

教区本部事務局

野中 泉 神父

(中央協議会・東京) 原田豊己 神父

(サンタフェ大司教区へ派遣) 伊藤正広 神父

平和の使徒推進本部 大西勇史 神父

広島司教区

(インマヌエルホーム在任) 深堀升治 神父

(司教館在任) 斎藤眞仁 神父

(広島地区協力・司教館在任) アレックス神父

(司教館庶務・向原在任) 猪口大記 神父

(ベトナム人の宣教師担当) テエ 神父

(ベトナム人の宣教師担当) ヤコブ 神父

広島地区 (地区長) フレデリック 神父

山口島根地区 (地区長) 山口道晴 神父

岡山鳥取地区 (地区長) パヴァン 神父

◇広島中央協議会(鞆町・向原・東広島・鞆町・島)

(鞆町・向原在任) 瀧井英昭 神父

(鞆町助任・向原助任) 星野倫淳 神父

(東広島在任) 朴 鍾錫 神父

(鞆町在任) 荻原代治 神父

(島在任) 沈 相淵 神父

◇西広島協議会

(鞆町・三篠・廿日市・鞆) (鞆町在任) 尹 兌榮 神父

(三篠在任) 瀧井英昭 神父

(三篠在任) 星野倫淳 神父

(廿日市在任) アルベルト・ベッラ 神父

(鞆町在任) 李 相源 神父

(鞆町協力) 福田誠一 神父

司教メッセージ

教区の動き

はじまりの春 よーい!どん!
百年史・乙女峠まつり・海峡からの風・地区便り
青少年・ひと粒

1〜3面
4〜5面
6〜7面
8〜11面
12面

広島教区長 白浜 満 司教
司教総代理 原田豊己 神父

(山根地方の協力) 松在任 野野 夫 神父

(出雲在任) アルベルト・ジャルト 神父

(米子・境在任) ダン 神父

(津和野) 益田・浜田

(津和野在任) 山根敏身 神父

(益田・浜田在任) 大西勇史 神父

◇岡山協議会(岡山・ロザリオ岡南・玉野・津山)

(岡山在任) 服部大介 神父

(岡山助任) 三宅仁孝 神父

(岡山南在任) ロイ 神父

(玉野在任) 西江和司 神父

(津山在任) ジョン 神父

◇倉敷協議会(笠岡・倉敷・玉島・水島)

(倉敷・玉島・水島在任) バート 神父

(倉敷・玉島・水島助任) シルベスタ 神父

◇鳥取協議会(鳥取・倉吉)

(鳥取在任) 朴 根培 神父

(倉吉在任) 肥塚修司 神父

イエズス会 庚午修道院

住田嘉信 神父

ブルハスタント 神父

ヴェーマイヤー 神父

真津洋二 神父

越智島 神父

口サド 修道士

愛徳修道去会

ヘンデリクス 修道士
牧田真一 修道士

キリストとその福音こそ、教会にとつて常に「新しいぶどう酒」だからです。どんなに厳しい現実の中にあっても、わたしたちはキリストの導きと恵みに希望を置いて、宣教の使命を果たしていく必要があります。そのための教会づくり（新しい革袋）を目指して、広島教区では、昨年4月29日に第1回目の「宣教ひろば」（教区レベル）を、そして今年2月24日に第2回目の「宣教ひろば」（協働レベル）を開催しました。皆様のご理解とご協力のもとに、今後も年に1回は、この「宣教ひろば」を継続して行ければと願っています。



第2回「宣教ひろば」から

今回の協働レベルの「宣教ひろば」において、わたしたちは「近隣の小教区がともに歩む新しい姿（協働体）」とはというテーマで、イエズスの片柳弘史神父様の基調講演を聞き、「霊における会話」を用いた分かち合いを行いました。テーマとなってい

る「協働体」とは、近隣の小教区が「ともに交わり、参加し、そして宣教」に向かうために、2018年から導入されている、従来のブロック制です。ただ広島教区では、「ブロック」という言葉ではなく、「協働体」という造語を用いています。7年目を迎える今年、基調講演で紹介された宇部・小野田協働体（宇部、北若山、高千帆）の3つの小教区の統合という動きがありました。この通常聖年（2025年）の復活祭をもって、3つの小教区が新しい宇部小教区としての歩みを始めることになりました。しかし、「霊における会話」を用いた分かち合いの発表の中で、本当に、これが広島教区の宣教司牧目標である「ともに歩むあたたかさのある教会」の姿なのかと、戸惑いや不安や疑問の声も聞かれました。



統合の発端

小教区として存続していくことができるかどうかの判断の要素はいくつかあり

ますが、今回の統合のきっかけとなった事柄は、「宇部・小野田協働体のために、今後複数司祭を派遣することが可能でしょうか」という質問でした。これに対して、「教区の現状を考えた時、近い将来、3つの小教区のために1人の司祭しか派遣できない」と、わたしは返答しました。（もちろん、これは、宇部・小野田協働体だけに限らず、他の協働体にも言えることです。）そのため、どのような協働のあり方を考えられるのかの検討を願いました。3つの小教区が、それぞれ現状を振り返り、話し合う機会を設けてくださった経緯については、3つの小教区の主任司祭である片柳弘史神父様が基調講演で話してくださいましたとおりです。もちろん、当初は、否定的な意見が強かったことは事実で、反対の投書が寄せられたこともありましたが、

現状の分析と対話

そこで、わたしの方からは（人間的な側面だけの視



「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

【春雷と梅】

信州の春は突然の雷鳴で始まる。家を揺るがす轟音が天を駆け、パツパツと梅が咲く。長い冬から解放される時である。梅の木の下で根雪が融けはじめ、雪の下でミツバチがせわし気に動き回っている。紫の小花が地面に張り付いている。まるで星たちが地上に落ちたかのような。

イエスさまの復活も突然であった。しょんぼりしていた弟子たちはオツたまげたに違いない。けれどもそれは本当だった。

た。彼らは喜び、悩んでいた人たちは解放され、道ならぬ道を歩んでいた人たちは回心し、死を超越する（いのち）に結ばれて、晴れ晴れとしたことだろう。雷のように、イエスさまの復活は人々を喜びで揺さぶった。「もう恐れなない」、もう悩まなない」、復活に小躍りした彼らの喜びは次から次へと伝わっていったことだろう。

清水 弘 神父
（イエズス会
ロヨラハウス・東京都）

点には問題を感じていました（が）、将来的な（教会の担い手となる世代の）信徒数の推移、維持費納入の状況、現在の保有金、そして共同体が使用する建物の維持管理（解体を含む）の見直しなどの具体的な問い掛

けをして、現状の分析を求めました。それは、小教区としての「自立」を求め、また協働体での「共助」の道を促すためでした。教区としての「公助」のあり方は今後の課題ですが、現状では、返済計画を立てて、

一時的な貸与を行うことが精いっぱい状況です。

教区長として、教区の信者の皆さんには、現実にしつかり向き合っていたら、小教区ごとに、そしてできる限り協働体でもよく話し合い、自分たちのことは自分たちで解決の糸口を探ることをお願いしたいと思います。

教区長からの非情な要請であっても、それを素直に受け止めて、宇部・小野田協働体の3つの小教区は、合同で「新小教区設立準備委員会」を発足させ、定期的に協議の場を継続してくださいました。年に2回ほどわたしも参加し、協議の内容を踏まえて、統合に向けた段階的な方針案を提示し、意見交換をしました。

その結果、統合に向けた段階的な準備として、北若山教会と高千帆教会でのミサを、交代で隔主日に行い、その他の主日には、宇部小教区のミサに合流していただきました。その際、

北若山教会と高千帆教会でミサがない隔主日に、「司祭不在のときの主日の集会

祭儀」を実施する案も提示

しましたが、距離的に宇部教会に近い2つの教会とも消極的でした。このような3年に及ぶ、段階的な準備を経て、ようやく通常聖年にあたる2025年の復活祭に、3つの小教区が1つの新しい小教区として再編成されることになりました。

その結果、2つの小教区（北若山と高千帆）は、新しい宇部小教区の地区となり、これまで使用されてきた建物（聖堂・信徒会館）は「集会所」に位置づけられることになりました。そして、信徒の皆さんの要望により、この集会所を維持することができるとは、主任司祭の判断によってミサをささげ、通夜や葬儀などの諸活動を行うこともできることになっています。ただ、集会所をいつまで維持管理し、解体の費用をだれが負担するのかという課題がまだ残されています。

協働体の解消
これまで広島教区には12



の協働体がありました。

宇部、北若山、高千帆という3つの小教区によって形成されていた宇部・小野田協働体は、今回の統合によって解消され、11の協働体になります。宇部・小野田協働体に属する3つの小教区は、割合距離的にも近く、長い時間をかけて識別した結果として、統合という結論に至りました。これも協働体として歩んできた1つの実りです。しかし、11の協働体はそこに含まれる複数の小教区間の地理的な状況はまちまちです。1つの協働体として括られてはいても、遠距離の複数の小教区を画的に1つに統合するには無理がありますし、宣教の拠点という観点からも、小教区の建物（聖堂・信徒会館）を維持する必要があります。そのため、協働体の第一の目的は、必ずしもそれを形成している複数の小教区の統合ではなく、宣教に向けて交わり、参加し、協力する「ともに歩むあなたかさのある教会づくり」であることを、再確認したい

と思います。実例として、2つの小教区が遠距離であるため、隔主日でミサと司祭不在の集会祭儀を交互に導入して実施している協働体もあります。協働体のあり方には、地理的、歴史的、文化的要因等から、多様性があつて当然です。

キリシタン時代の信仰共同体



厳しい迫害を受けつつ、司祭が不在であつても、また教会堂という建物がなくても、信仰を子々孫々、継承してきたキリシタン時代の信仰共同体は、現代の静かな迫害の中にある教会ではないでしょうか。そこには、将来の教会を担う信徒の養成に力を入れた司祭や修道者の司牧的な配慮があつたに違いありません。ただし、その模範を現代の教会が置かれている状況の中で、どのように具体化して「新しい革袋」を形成していくことができるのか、課題として残されています。

復活し今も生きて教会を導かれるよき牧者キリストの働きとその福音は、教会にとつて常に「新しいぶどう酒」です。それを人々のために保持し、配り続け、その味を伝えていく革袋としての教会のあり方は、絶えず刷新されなければなりません。今年も主の復活を祝い、キリストとともに生きる新しいぶどう酒を味わう恵みをいただいているわたしたちは、小教区の枠を超え、宣教に向けて交わり、参加し、協力する「ともに歩むあなたかさのある教会づくり」を目指していきたいと思ひます。



世界平和記念聖堂

教 区 の 動 き

第2回「宣教ひろば」開催



開催の概要

去る2月24日(月・祝)、2020年教区代表者会議後に発出された司教教書に基づき、昨年4月29日に開催された第1回「宣教ひろば」に続き、第2回目「宣教ひろば」が開催された。前回は、広島教区内の全小教区の司祭と信徒代表の総勢105名にて、「ともに歩むあたたかさの



広島カトリック会館 多目的ホールの様子

ある教会」の姿について分かち合いを行ったが、今回は協働体単位で、「近隣の小教区が『ともに歩む』新たな姿(協働体)とは」をテーマとして総勢150名が、小教区を超えた協働体としてどのように歩んでいくかを一緒に考える「霊における会話」を中心に開催された。今回は全員が一堂に会して行われたが、今回は協働体ごとにオンライン参加とし、「霊における会話」のみ非公開で全体が繋がる試みであった。

はじめに、平和の使徒推進本部部長の瀧井神父より第2回「宣教ひろば」の開催の挨拶、初めの祈りが行われた。

片柳神父を中心とした

基調講演

今回のテーマである「協働体」について考える機会として、4月20日の復活祭

をもって、新しい小教区へと生まれ変わる宇部・小野田協働体について、宇部教会主任司祭の片柳神父、北若山教会の島本信徒会長、高千帆教会の下崎信徒会長から、三教会統合に至った背景・歩みよりの様子・今後についての講演があった。統合への道のりについて、わかりやすい言葉で紹介し、それぞれが自分の小教区に置き換えて考えるきっかけとなるような、まさに今回のテーマ「協働体」としての歩み寄りそのもののような内容であった。

・統合の目的

高齢化と次世代への信仰継承の途絶による、それぞれの小教区の消滅を阻止し、持続可能な新小教区として生まれ変わる。より宣教的な教会共同体に成長することを目的とする。

・統合の基本方針

宇部教会による吸収合併ではない。全く新しい規約を作る。
・発足の経緯

移行期間3年。期間内は移行措置を継続し、主日ミサのやり方、二教会の今後の利用方法、小教区準備委員会による新しい規約作成、信徒の運営組織(典礼部など)の編成、各部ごとの三教会合同委員会の立ち上げなどの経緯、そして北若山教会・高千帆教会での「感謝ミサ」のうち、4月20日の復活祭をもって新しい宇部教会が誕生することを説明。

信徒全員参加型の大変な作業と推察できるが、「4月からは新しい網を下ろし、新しい船で沖まで漕いで漁をする。船が沈むくらい大漁かも。希望しかない。」という片柳神父の希望に満ちた言葉が印象的であった。

「霊における会話」の実践

平和の使徒推進本部の田中副本部長より、小教区によつては活動維持が困難になりつつある現状、テーマの背景、「協働」という漢

字からも示されている多様性を重視した協働体単位での分かち合いに至った経緯、具体的な分かち合いの実践方法の説明ののち、「霊における会話」が行われた。今回は12協働体、計16グループに分かれ、フアシリテーターの導きにより、一人2分間ずつで分かち合った。前回同様、沈黙の祈り、みことばを全員で唱える、相手の言葉を祈りだとして真剣に聞くことを大切にしてステップを進めた。「霊における会話」終了後、再度オンラインで全員集合し、各協働体から2分程度のまとめ発表があった。

まとめ発表

基調講演を聞いた後の「霊における会話」だったことから自分の所属する小教区に重ね合わせて分かち合ったグループも多く、他にも協働体レベルでの取り組みにあたり、立地環境に伴う距離感や人員不足から大きな動きが始めにくい状態、言葉の問題から分かち合いへの参加が難しいなど、各々が、また小教区が

抱えている現実的な問題点

も出たが、ステップを進めるうちに、神を中心に置き、希望のうちに進んでいきたいという心境に徐々に変化し、それに気付かせてくれた聖霊に感謝、神の愛に感謝の言葉が多く見られた。

最後に

白浜司教から、三教会統合への体験を話してくださった片柳神父をはじめ新しい姿へと進む決断をされた三教会の皆様の理解と協力についての謝意が示された。また、今回の第2回「宣教ひろば」の実施を振り返り、広島教区としての

平和の使徒推進本部からの報告



正義と平和推進デスク

「2024 平和を創る人々の集い」が2025年1月11日(土)〜12日(日)に行われた。

テーマは、「平和を実現する人は幸いである(マタイ5章10)」

2024度から教区の平和関係の活動をまとめ、動き出した「正義と平和推進デスク」の全体会にあたる活動がこの集いである。

活動に興味がある方は自由に参加でき、各地区の正義と平和推進チームをはじめ、他教区、プロテスタントの参加もあり、多様な仲間が集いとなった。学習会

一体感、また、神の家族であることを実感し、聖霊のはたらきを感じた、と話された。
「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ」(マタイ9章17節)という聖句を引用して、教会は常に刷新されなければ、「ともに歩むあたたかさのある

(山口県宇部市／長生炭鋳フィールドワーク)・分かち合いを行い、イエスの正義と平和のために働く仲間たちは、力を充電し各地へ派遣された。

「ラウダート・シ」デスク

2024度から、中井神父の発案により「エコロジカルな回心の霊性を育む黙想会」を開始し、周防大島花咲く郷「祈りの家」で3回、イエズス会長東黙想の家で1回実施した。

周防大島は、交通手段が少ないこともあり参加者は少なかったが、自然に恵まれた歴史ある会堂での祈り

教会」という10年間の宣教司牧目標に力をいれて行きましょう。必要なら新しい革袋を用意しなければなりません。教会の頭であるイエス様の導きと、聖霊のはたらきに信頼し、これからも毎年一度は、いろいろな形式で「宣教ひろば」を実施して、希望のうちに歩ん

「2025 聖年」企画の後援について

「2025 聖年」の期間中、教区では皆様から以下の条件を満たす関連行事を募集中です。皆様から提案された関連行事は、平和の使徒推進本部において審査の上、後援行事として必要な経費の一部を助成してまいります。

- ① 教区、地区、協働体、教区活動団体・委員会、地区活動団体・委員会が主催する行事であること(小教区行事は含みません)
- ② 聖年を祝うのに相応しい企画であること

でまいりましょう、と力強く話された。
最後に「ともに歩むあたたかさのある教会を願う祈り」を、参加者全員で祈ったのち、祝福をいただき、第2回「宣教ひろば」を終えた。



③ 担当司祭の推薦等があること

④ 行事を行う日が2025年12月28日までの聖年期間であること

質問や不明な点は各地区センター、または平和の使徒推進本部 (pcaph@catholic.hiroshima.jp) までメールでお問合せください。

なお、助成できる予算には限りがあるため、予定した予算がなくなり次第締め切りとなりますので、ご了承ください。

はじまりの春よーい!どん!



宇部教会の信徒の皆様



幟町書院 オリーブの樹 (完成イメージ)

幟町書院 オリーブの樹

5月1日、聖パウロ書院の跡地に「幟町書院 オリーブの樹」がオープンします。

カトリック書籍、聖具はもちろん、国内外の修道院でお祈りたつぷりに作られたお菓子やオリーブオイルなどの製品がずらり。中国地方初登場!もたくさん取り揃えておられますので、どうぞお立ち寄りください。

4月20日の復活祭ミサをもって、宇部、北若山、高千帆教会の三教会が対等な形で統合され、新しい宇部教会が発足した。これまで市民駅伝に連合チームで参加するなど、交流を深めてきた三教会。さらなる発展が期待される。

津和野巡礼センター

2024年の3月に、聖心の布教師妹会の津和野修道院が、95年にわたる長い歴史を閉じ、同修道会は津和野から撤退しました。その後、同修道会の御好意により、修道院の一部の建物と畑を残して、跡地をアスファルトで舗装していただきました。

その一部の建物を改築した「津和野巡礼センター」と呼ばれる小さな家の祝福

式が、今年3月27日に、白浜司教によって行われました。

同センターは、広島司教区の所有のものです。しばらくの間、津和野での宣教奉仕を希望されている純心聖母会のシスター方の修道院として使用されることになっていきますので、同センターでの宿泊はできません。しかし、アスファルトの庭には車を停めるスペースがありますので、空いている場合は、駐車することが可能です。

同センターは、津和野教会から歩いて5分くらいのところにあります。訪問される場合には、津和野教会の方にお尋ねください。



リニューアルされた、津和野巡礼センター

細江教会

このたびは、念願の聖堂再建のために導いて下さった、あらゆる関係者の皆様方に感謝致します。旧聖堂は老朽化で耐震・漏電等の問題があり、当初建設計画(約20年)を緊急避難とみなして前倒しで建築に着手しました。

は、これまで8年間の積立金とは大きな隔たりがあり、これは借財として残りました。

建物は完成しましたが、前倒し建設とコロナ禍の要因で建設資金

ここからは教会の未来の新たな挑戦と考えて、信徒一丸となり継続して建築積み立てを呼びかけていきます。これからも皆様のお祈りとご支援をお願い致します。

信徒代表 近藤豊之

国際交流司牧センター「みんなの家」

赤磐市に在住するベトナム人の共同体が、

作業の体験やボランティア、また国籍を超えたその他の交流や活動を支援するために、

米国の在住するベトナム人の複数の共同体の支援を受けて、岡山県赤磐市下市3・2にある物件を購入し、国際交流司牧センター「みんなの家」を開設しました。4月6日にその祝福式が行われ、活動をスタートしました。

みんなが使用できる多目的の集会所(兼聖堂・約100名)と宿泊施設(約10〜12名)があります。使用を希望される方は管理者(ホアン・ドゥク・ロイ神父(090-9969-2478)まで)ご連絡ください。

赤磐市のベトナム人共同体が運営する「日越交流赤磐農園」での農

作業の体験やボランティア、また国籍を超えたその他の交流や活動を支援するために、



国際交流司牧センター「みんなの家」で行われた開設記念ミサ後の記念写真



細江教会 献堂式後の記念写真

おかえりなさい。

いつてらっしゃい。

フィリピンで2年間の英語研修を終えられた三宅仁孝神父様が帰国されました。

雨期などの慣れない気候や食事に戸惑いながらも、充実した日々を過ごされたとのこと。この経験をこれからの司牧活動でどのように活かせるか…楽しみです。三宅神父様から海外赴任のバトンを受け継ぐの

は、伊藤正広神父様です。サンタフェ教区(米国)で司牧活動を行いながら、「核兵器のない世界のため」のパートナシップ推進事務に関わられる予定です。メキシコに近く、スペイン語を話す信徒も多い地域とか。新しい環境がちよっとワクワクという神父様のためにもお祈りください。



フィリピンから戻ってこられた三宅神父(左)と米国に行かれる伊藤神父(右)



サンプルページのQRコード
<https://hiroshima.catholic.jp/post-2051/>

『広島教区百年史』完成

「教区百年史編纂委員会」の川本隆史です（観音町教会信徒）。2023年9月より半年かけて、旧・編纂委員会（委員長・肥塚倅司神父および委員3名で2017年9月に発足）が収集した各種資料の精査を進めました。2024年4月に委員長を拝命した私と3名のメンバーでもって新たな委員会を結成し、後世に残す歴史書としての内容と形式を備えた『広島教区百年史』の編纂を開始しました。その成果を単行本として刊行いたします（A5判／今年度前半、サンパウロより発行）。

現・編纂委員会のメンバーは、担当司祭の肥塚倅司神父および猪口大記神父に竹内秀晃さん（職町教会信徒／広島信望愛学園事務局）と委員長の川本隆史（観音町教会信徒／東京大学名誉教授）を加えた4名で構成されています。

2023年9月11日、6年前に発足した当初の編纂委員会が作成した資料一式を引き継ぎました。元のプランでは第一編に置かれていた100年史の概観を全面的に書き直して、後世に残せる単行本の正史として提供すべく、定例ZOOMミーティング（ほぼ毎週の2時間）での討議および司

教館・関連施設の資料整理から取り組みました。こうした半年間の活動を踏まえて、2024年4月1日付けで現在の委員会が正規にスタートしたのです。

その後も定例ZOOMミーティングを続行し、司教館でのメンバー合宿を重ねました。歴史書としての整合性を実現し典拠を明示するための協働作業、埋もれていた史資料の探索・発掘に少なからぬ時間と労力を費やしましたが、先人の篤い信仰を偲び過去に学ぶ楽しみを味わえたことにより充分報われています。猪口神父が発揮した強力なイニシアチブのもと、職務の完遂にラストスパークをかけて、精確かつ密度の高い本文と詳細な注記を備え、貴重な写真・画像が適所にレイアウトされた原稿が、ようやく仕上がりました。ここに入稿前のファイルの一部を印刷見本（代用）として提供しますので、ご覧ください。私たち一同は、この『広島教区百年史』が教区の聖職者・信徒のみならず、広範な市民や研究者の関心に応え検証に耐える水準を達成しているものと信じて疑いません。版元のサンパウロを通じて市販するルートを選んだのも、そうした確信の裏づけがあるからこそなのです。

委員会を代表して 川本隆史

WWME JAPAN 50周年感謝の集いin広島のご案内

ワールドワイドマリッジエンカウンター（ME）が日本に拡大して50周年を迎えるのを記念して感謝の集いを開きたいと思っております。ご夫婦で、また、お一人でもぜひご参加ください。懐かしい皆さまにお会いできるのを楽しみにお待ちしております。



- *5月31日（土）12:30～17:00
- *カトリック祇園教会 駐車場有
- 12:30～受付
- 13:00～ミサ 大聖堂 *ZOOM対応
- 司式：アレキシオ 白浜 満司教
- 14:15～感謝の集い&茶話会
- 場所：信徒会館ふれあいセンター
- *お問い合わせ連絡先
- 080-3887-7394(富山信行 福山教会)
- Eメール：n.h.tomiyama@gmail.com

長束修練院の閉鎖について

イエズス会の修練院は、今年3月末をもって東京へ移転することとなり、広島市安佐南区にある長束修練院は閉鎖されました。長束修練院は、1938年に設立され、イエズス会の初期養成の場として多くの会員が修道生活を送ってきました。

2005年以降は、長束修道院および西日本霊性センターとして運営され、多くの人々が黙想の場として利用してきました。なお、同建物の閉鎖後の利用については、現時点では未定です。



長束修練院 感謝ミサの参加者

津和野乙女峠まつり

前夜祭「希望の巡礼
～聖年を迎えて～」

日時 5月2日(金)19:00
講演 白浜 満 司教 (広島司教区)
場所 幼花園ホール (津和野カトリック教会隣り)

2025年 5月3日(土)

10:15 開式・聖母行列
(津和野カトリック教会～乙女峠)

12:00 野外ミサ(乙女峠)
司式 前田 万葉 枢機卿 (大阪・高松大司教区)

*雨天決行。催祭などについては津和野町観光協会へお問い合わせください。(TEL:0856-72-1771)

広島司教区 津和野カトリック教会

〒699-5605 広島県広島足郡津和野町後田口 66-7
TEL:0856-72-0231 / FAX:0856-72-0282

2025年 プラチナ祝・ダイヤモンド祝・金祝の聖職者

◆プラチナ祝70周年◆

《援助修道会》
Sr.栗本 晃子 1955年9月8日 初誓願

◆ダイヤモンド祝60周年◆

《ナミュール・ノートルダム修道女会》
Sr.小田 程子 1955年2月5日 入会

《ナミュール・ノートルダム修道女会》
東広島修道院

Sr.柴田 昌子 1965年4月19日 入会
Sr.鈴木 千枝子 1965年4月19日 入会
Sr.高木 貞子 1965年4月19日 入会

◆金祝50周年◆

《イエズス会》 庚午修道院

Fr.裏辻 洋二 1975年3月22日 叙階

《イエズス会》 (津和野教会)

Fr.山根 敏身 1975年3月22日 叙階

《愛徳修道士会》

Br.牧田 眞一 1975年3月25日 初誓願

《カルメル修道会》 教会の母マリア修道院

Sr.高園 泰子 1975年5月31日 初誓願

地区便り

山口島根地区

*平和アピール1981、
聖ヨハネ・パウロ2世来日
記念行事、

今年度の山口島根地区の
平和アピール1981は、
2月15日(土)に岩国教会
で開かれた。日本被団協の
ノーベル平和賞受賞をお祝
いし、その活動を学ぼう
と、日本被団協の代表理事
の田中聡司さんを講師にお
迎えた。授賞式の様子、
ご自身の被爆体験、被爆者
の運動が多くの方の市民団体に
支えられて今日あること、
日本政府が核兵器禁止条約
に入ろうとしないことの恥
ずかしさなどを、中国新聞
の元論説委員らしく、理路



田中聡司さん

整然と語られた。

午後からは「霊における会話」で分
散会を行い、ミサで集いを終えた。参
加者は30人と小規模ではあったが、その分、
参加者同士の距離も近く、実りの多い集いとな
った。全て、岩国教会のみなさんのおもて
なしのおかげである。感謝。

岡山鳥取地区

*キリスト教一致祈禱週間

水島教会のこころみ

私たちは、日本キリスト教団倉敷水島教会
の方々と25年前から、キリスト教一致祈禱週
間中の日曜日に関年でお互いの教会を訪問し
合い、キリストのうちひとつになることを
願って、祈りを共にしています。

今年のカトリック水島教会にお招きし「キ
リスト者の一致」のテーマのもと、ミサを捧
げて祈りました。その後、昼食をしながら歓
談のひと時を過ごしました。お互いの日頃の
活動などについて話し、いい刺激を受けてい
ます。

平日の集まりではごく一部の人の交わりにな
ってしまっているので、できるだけ多くの信徒が
交わるようお互いに大事な日曜日を共に一
致を祈り、行動する日としています。2年に
1度、日曜日に主日のミサに与れない不満が
信徒の中にあたり、時の司祭の考えの違い
があったりと、紆余曲折がありました。夏
祭り・バザー・市民クリスマス・世界祈禱日
などの交流へと広がっています。白浜司教様
の励ましと許可も頂けたので、今後もこの交

75 海峡からの風

下関労働教育センターだより

1990年、天皇代替わり
後の未だ何となく言論の自由
に閉塞感があった頃、下関の
行動とことばをつなぐ機関誌
「海」が創刊した。当初は別
の場所で開催していた
が、私にとっては下関労働教
育センターでの作業のイメー
ジしかない。私は創刊当時反
アパルトヘイト運動、その後
東ティモール独立支援運動に
懸命で、しかも93年頃からは
下関・東ティモールの会の会
報「ディアカライ」の編集で
いっばいいっばいで、「海」
には関わってこなかったが、
東ティモールが独立し、
会報を出す頻度が激減した
2002年頃からだろうが、
少しずつ「海」の版下作りに
携わり、2011年からは本
格的に関わり、2012年に
は半分の版下を作るようにな
り、どんどん比率が高まり最
終的には全ページの版下を作
成するようになった。そして
今年、35年続いた「海」の発
行が終わりを迎えた。少し残
務があり、購読者には追補を
送るが…

私が「海」に関わるように
なったのは、東ティモール、
三年前に連載途中で亡くなっ

た同級生大倉純子、祝島カ
ヤック隊で活躍した面々、山
口県立大学・下関市立大学等
の国際協力関連のメンバーと
のつながり故で、何人かには
この一年間で久々に投稿して
もらった。その他、私が関
わった市民活動等の様々な皆
さんから寄稿いただいた。

編集委員も35年の間に何人
もが下関を、この世を離れ、
執筆や読者も同様。元気に
購読を続けた方も加齢が進
み、文字が小さいとの苦情を
受け、途中B5版からA4版
に拡大もした。「海」は個人
の意見を自由に(字数制限す
ら気にしない方もおられたが
…)書くことができ、しかも
頑なにネットには載せない様
にしていたので、不快な批判
に晒される事がない、時代遅
れの良さを備えていた。

いずれにせよ、センター
のもう一つの顔と自負する
「海」はその役割を全うし、
そこに関わってこられたこと
を幸せに思う。さあ、これか
らの「ロクスひよりやま」の
もう一つの顔を共に生み出し
て行きましょう。

(大城 研司)



李神父様を中心に講演会の参加者一同

＊聖ヨハネ・パウロ二世来
広記念行事に参加して
ヨハネ・パウロ二世来広
記念行事として、2月23日
(日) 記念ミサ、イエズス
会で観音町教会出身の李聖
一神父様による講演会「被
爆2世として思うこと」、
被爆者による被爆証言とイ
ンタビュー映画「for you
人のために」上映会を、25

広島地区

わりを深め、この地域で同
じ神様を信仰している者同
志、協力し合ってキリスト
を証していききたいと願って
います。

日(火)には世界平和記念
聖堂のヨハネ・パウロ二世
像前で祈り、午後には平和
記念公園慰霊碑前で祈りの
集いをおこないました。
ノートルダム清心中・高等
学校カトリック研究会の中
学2年生の生徒が参加させ
ていただき、聖ヨハネ・パ
ウロ二世を始め、被爆直後
に負傷した人々を救護した
イエズス会の神父様たちの
話を聞き、平和について深

く考えた時間となりまし
た。
参加した生徒の感想を紹
介します。
・李神父様のお話や映画
をみて、被爆者の方に
とって原爆はまだ終
わっていないくて、だか
ら被爆者の方たちは語
り続けているのだと思
いました。

・李神父様のお話でお母様
のことや教会の扉のペ
リカンのレリーフの意
味など知らなかったこ
とを多くことを教えて
いただきました。
・ミサ・講演会・映画と1
日を通して、「平和」
について考えました。
李神父様の講演会で
は、被爆者の方たちの
話を聞いた私たちが、

そこから普遍的なメッ
セージを見いだし、そ
れを伝えていくことが
必要だということがと
ても印象に残りまし
た。ドイツ人の神父様
が負傷した人々の手当
てをしてくださったこ
とを初めて知りまし
た。初めて知ることが
たくさんありました。

司祭人事異動 (新任地←前任地)

＊移動時期はいずれも復活祭明けから

〈イエズス会〉		
作道宗三神父	細江・彦島教会協力	←細江教会主任
アルフレド神父	宇部教会主任	←山口教会主任
アレックス神父	広島地区協力(司教館在住)	←萩教会主任
	(復活祭後～6月末は観音町教会のミサ担当)	
片柳弘史神父	山口教会主任	←宇部教会主任
ディン神父	細江・彦島教会主任	←宇部教会助任
トアン神父	教区外 (2025年1月より)	←細江教会助任
ミン・トアン神父	山口教会協力	←教区外

※百瀬文晃神父(長府教会主任) 4月1日より短期休養
その間イエズス会の英隆一郎神父(教区外)が長府教会主任代行

〈淳心会〉		
フレデリック神父	三原・尾道教会主任兼務 (尾道教会在住)	←三原教会主任
レイモンド神父	教区外	←倉敷教会主任
バート神父	倉敷教会主任	←呉教会主任

〈ミラノ外国宣教会〉		
ブルーニ神父	引退(三次教会滞在予定)	←笠岡教会主任
パヴァン神父	笠岡教会主任	←倉敷協働体チーム (玉島教会在住)

〈釜山教区〉		
沈 相潤神父	呉教会主任	←玉野教会主任
全 東黙神父	萩教会主任	←日本語研修 (司教館在住)

〈ソン・ロック教区〉		
ヤコブ神父	日本語研修(司教館在住) ・ベトナム人司牧協力	←教区外

〈教区司祭〉		
荻喜代治神父	翠町教会主任	←幟町教会主任
瀧井英昭神父	幟町・三篠 ・向原教会主任兼務	←観音町教会主任
西江和司神父	玉野教会主任	←尾道教会主任
福田誠二神父	祇園教会協力(祇園教会在住)	←三篠 ・翠町教会主任兼務
尹兌榮 神父	観音町教会主任(日以降)	←韓国留学・教会法
三宅仁孝神父	岡山教会助任(幟町教会在住)	←フィリピン英語研修
星野倫神父	幟町教会助任 ・三篠教会担当・向原教会協力	←岡山教会助任
伊藤正広神父	米国サンタフェ大司教区へ派遣	←幟町教会助任

※サンタフェ大司教区のカテドラルの協力司祭として働きながら
「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」推進のための任務を担う

青少年の活動

チューブロー テーマは「FRIEND SHIPS」

第59回目を迎える、「中国プロックカトリック高校生大会(チューブロー)」。今年も3月27日～29日の3日間、倉敷の清心中学校・清心女子高等学校を会場に、無事開催させていただきました。

今年も、参加者の3分の2以上の方が初参加！加えて、当日



山口教会
グエン・ミン・トアン神父(イエズス会)

初めまして、

ミントアンと申します！

私は、2015年6月下旬に来日したイエズス会のグエン・ミン・トアンです。2022年9月17日に、神様の恵みと皆さんのお祈りに支えられて司祭に叙階されました。ここで私の召命、特に司祭になるうと思っただきつけかけについて、分かち合いたいと思

運営をお手伝いくださるスタッフも新メンバーが多く、内心ハラハラドキドキのスタートでした。ですが、会場の松沢校長先生をはじめ、準備の段階では森副校長先生に1年間お世話になり、当日の急遽の変更にはシスター中村が守衛さんや先生方とのやり取りなど、沢山ご協力をください、なんとか素晴らしいチューブローにすることが出来たように思います。

また、スタッフ青年たちや神父様方の協力も本当に心強く、数回の打ち合わせだけでそれぞれ

の持ち場を完璧にこなしてくださったことは、感謝の思いでいっぱいです。さて、肝心の参加してくれた中高生たち。

開催中は、滞りなく運営することに必死でみんな楽しくやっていたのかな、と不安になる場面もありましたが、開催後、SNSなどに投稿されるみんなの嬉々とした感想を見て、しみじみと喜びを感じております。

「FRIEND SHIPS」というテーマで開催した、今回のチューブローの講師には、イエズ

読めるようになったとき、祖父の指示で、晩の祈りの際に翌日の福音書を皆の前で読むようになりました。家族との生活は、物質的には豊かではありませんでした。とても幸せでした。

また、毎日与っていた教会のミサで、司祭たちが祭壇で手を広げてミサを捧げる姿をずっと見ていました。いつの頃からか、その姿が私の心に深く刻まれるようになりました。今振り返っても、その姿は美しいと感じます。その姿を通して、少しずつ神父になりたいという望みが強くなっ

ていきました。ただ、その望みをどのよう、どうやって

ス会の越智神父様が来てくださいました。「これは、神回だ！」と、確信を持って言えるほど、中高生たちだけでなく、大人にも刺さるお話しで、途中で涙を見せる参加者もいたほど。

質疑応答の際に出た「誰かと出会う時に、その人が自分にとって得であるかどうかを見てしまふところがある。そんなふうに思ってしまう自分が嫌だ。

そう思わないで人と出会うにはどうしたら良いか」という高校生から質問にはとても考えさせ

実現できるのかは、高校を卒業してから探しました。当時、私の故郷ではドミニコ会や教区司祭はよく知られていました。イエズス会はあまり知られていませんでした。それでも最終的に、私はイエズス会に入会することになりました。

私が司祭になりたいという望みを持てたのは、家族や故郷の教会の人々に支えられたおかげであり、また祭壇で奉仕する司祭の姿を見ながらその望みが強められ、導かれる体験をしたからです。

どうか私が仕えるものとなるよう、今後ともお祈りと支えをお願いいたします。

られ、充実した講話の時間となりました。

越智神父様と大西神父様の対談形式で行われた第二講話では、参加者から出た相談や質問にお答えいただき、終了後には「まだまだ聞きたかった！」という声が多くあがりました。この対談のダイジェスト版はYouTube「大西勇史の神父チャネル」で近日公開されるそうです！

FRIEND SHIPS号に乗船くださった皆さま、次の集合場所は、JR山口線徳佐駅です。津和野ミッドナイトウォーキングで、お会いしましょう！
(青年活動企画室 益田)



チューブロー参加の中高生たち



今年も、中国地方で桜が同時に満開。異動の多い今年度、また新たな気持ちで教区・小教区のために尽くしていきましょう。(た)



(124)